

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 7 日現在

機関番号：13101

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2016

課題番号：16K13411

研究課題名(和文) デジタル資料群間をめぐるMALUI連携による領域横断的研究

研究課題名(英文) An Interdisciplinary Study on Digital Resources Integrated by MALUI Alliance

研究代表者

原田 健一 (Harada, Kenichi)

新潟大学・人文社会・教育科学系・教授

研究者番号：70449255

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：地域社会の情報コンテンツを文化資源として共有化するために、MALUI連携の一環として、新潟県立図書館と連携し「郷土新聞画像データベース」(新潟県内で明治から昭和初期に発行された新聞3万件、画像数20万点を収録)を立ち上げ、「にいがた MALUI連携地域データベース」に統合し、閲覧・公開を始めた。

さらに、今後、こうした統合されたデジタル・アーカイブを展開させていくためには何が必要なのか、さらには社会連携を進め、多くの人々に利活用してもらうためにどうしたらよいか、また、新たな領域融合的な研究のあり方はどうあるべきなのか、シンポジウムを新潟県立図書館ホールで開催し、議論を行った。

研究成果の概要(英文)：As a part of MALUI (Museum/Archives/Library/University/Industry) Alliance project aiming at sharing informational contents as cultural resources of the regional society, Niigata MALUI Regional Database, in which Niigata University's Niigata Regional Image Archive Database was integrated with Niigata Prefectural Library's Niigata Regional Newspaper Database, was activated. The latter database contains 200,000 digital images of 30,000 issues of newspapers published between the Meiji era and the early Showa era in Niigata Prefecture. In the symposium held at Niigata Prefectural Library Hall, participants discussed how to improve the integrated digital archives, how to widen the institutional alliance and increase the database users, and how to establish an interdisciplinary academic frame in order to fully utilize the integrated digital resources.

研究分野：映像社会学

キーワード：統合型データベース 地域メディア 地域情報 MALUI連携 文化資源

1. 研究開始当初の背景

(1) 欧米では映像をデジタル化し、文化資源として共有化し、研究、あるいは教育的利用をすることが進められているが、日本社会では大幅に遅れている。また、一方で、中央と地方との格差の為に、情報(コンテンツ)は中央に集中化され、地域の情報(コンテンツ)がなおざりにされ、そのことが地域の活性化、再生を阻害する原因ともなっている。

(2) 本研究は、2009年以來、続けられている新潟における地域映像アーカイブ・プロジェクトの実践的な研究の蓄積をもとに、こうした情報の格差がなぜ、起こるのか。さらには、どうしたら改善することができるのかを、社会実験によって明らかにしようとするものである。

2. 研究の目的

(1) 本研究では、「新潟」という一つの地域の枠組みを用いることで、マス・コミュニケーションである新聞記事のデジタル化したコレクションと、社会の中間的なコミュニケーションというべき「地域」コミュニティに関連する映像を発掘・デジタル化したコレクションとを統合する。そしてこれら地域メディアの情報(コンテンツ)を集合化し、横断的に検索し、研究できるようにする。

(2) 新聞社が行うデータベースや、放送局、あるいは資料館、アーカイブなどが単独で行うデータベースは数多く存在する。しかし、現在、こうしたさまざまな資料、デジタルデータを横断的に結びつけることは行われていないだけでなく、そうした新しい研究も行われていない。各研究領域で、単体でバラバラに行われているにすぎず、これまでの研究のシステムそのものを問うことができていない。その意味で、こうした異なるジャンルのデータベースの統合によって、新たな資料空間を構築し、そのことによって研究枠組みを再構築することを促す。

(3) こうしたデータの統合は、それだけではない社会的意味を有する。こうした社会の情報コンテンツを文化資源として共有化するために、異なる領域の機関である、博物館、資料館、図書館、大学、産業界と提携すること

をMALUI連携というが、そうした大きな社会的な枠組み、システムを創出する、既存の社会システムの再構築という大きな社会問題と関わる。本研究は、単なる研究という枠では収まらない、大きな社会的動向のなかにあり、自らもそうした動向に荷担するという、社会実験的なアプローチをとる。

3. 研究の方法

(1) データベースを統合するための構成は、公開用の表示・検索等を担うウェブサーバーと、外部から直接アクセスできない画像管理サーバーに分離することによって、資料公開方法の柔軟性と一部公開制限のある画像データの保安について両立を図る。具体的には、マルチフォーマット対応の画像ビューアとIIIF (International Image Interoperability Framework) 等の国際的規約、新技術により、運用者側と利用者側の双方に利便性の高い新世代型統合システムを目指す。

この研究においては、実施するシステムが新しいシステムであり、システムとして実際に機能するか、実証するための作業を行う。

(2) 異なったジャンルのデータ群とデータ群とは、そのまま異なった機関と機関のデータであり、機関と機関との連携による統合を意味する。統合データベースの閲覧・公開にあわせ、今後の地域の関連機関のデータの統合を促進するために、公開シンポジウムを行い、こういった問題点があるかを議論する。

4. 研究成果

(1) 2017年3月より、統合型データベースのサイト「にいがた MALUI 連携地域データベース」として、新潟県立図書館と協力し戦前期の地域新聞をデジタル化し「郷土新聞画像データベース」を立ち上げた。このデータベースは、「地域」コミュニティに関連する映像を発掘・デジタル化した新潟大学地域映像アーカイブの「にいがた 地域映像データベース」と統合されており、地域メディアのコンテンツを集合化し、横断的に検索できるためのシステムを構築するものである。

(2) 次に、2017年3月25日(土)新潟県立図書館ホールにて「にいがた MALUI 連携

による地域・統合型データベースの可能性」としてシンポジウムを開催した。司会は一戸信哉（敬和学園大学）により、今回の統合型データベースについて原田健一、各地域のデジタル・アーカイブの連携について山崎博樹（秋田県立図書館）、国立国会図書館が進める連携拡張に向けた「ジャパンサーチ」について徳原直子（国立国会図書館）、オープン・データのあり方について岡本真（アカデミック・リソース・ガイド）が、連携を進めていくうえで、どういう問題があるのか報告を行った。県外からは福岡市総合図書館、県内からは十日町情報館など実務担当者約 60 人が参加し、フロアとのディスカッションを含め、今後のデジタル・アーカイブの展開のあり方、さらには地域連携について議論を深めた。

(3) 今後の研究課題として、新潟県立図書館と協力し戦前期の地域新聞をデジタル化した「郷土新聞画像データベース」の新聞記事と映像とを共通して検索できるようにするためには、新聞記事の見出しの書き出しと、映像の言語化をしないと検索することはできない。こうした書き出し作業のやり方、ノウハウを蓄積し、それらを教えることができるような核となる人材を育成することが必要となる。県立図書館との連携による地域のボランティアチームの結成や、さらには、大学生の参加によって、地域情報を集約化する過程において、年齢を越えた文化継承の場を創生し、作業のなかで、映像や新聞記事について、地域の人びとと大学が共に学ぶ場を構築することが求められている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 2 件)

(1) 原田健一「コミュニケーション・デザインとしての地域映像アーカイブ 新潟大学地域映像アーカイブ映像データベースと新潟県立図書館郷土新聞データベースの統合

をめぐって」4K 徳島映画祭(招待講演) 2016 年 11 月 26 日、神山パラー・サテライトオフィスコンプレックス(徳島県名西郡神山町)

(2) 原田健一「デジタル・アーカイブの統合による地域メディア研究の再構築 コミュニケーション・デザインとしての地域映像・アーカイブ」神戸大学地域連携事業「映像を媒介とした大学とアーカイブの地域連携」2016 年 3 月 20 日、神戸映画資料館(兵庫県神戸市)

〔図書〕(計 1 件)

(1) 原田健一「『可能現実存在』としてのデジタル・アーカイブの作法 新潟大学地域映像アーカイブ映像データベースと新潟県立図書館郷土新聞データベースの統合をめぐって」『手と足と眼ざしを使ったデジタル映像アーカイブ研究と地域実践』(仮題) 学文社より、2017 年度内に刊行予定である。

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
「にいがた MALUI 連携地域データベース」

<http://arc.human.niigata-u.ac.jp/malui/>

より、下記の二つのデータベースに入ることができる。

「にいがた 地域映像アーカイブデータベース」<http://arc.human.niigata-u.ac.jp/db/>

「新潟県立図書館 郷土新聞画像データベース」

<http://niigata-press.human.niigata-u.ac.jp/wy/shinbun/>

「にいがた MALUI 連携地域データベース」は連携している関連機関でのみ閲覧が可能である。ただし、「にいがた 地域映像アーカイブデータベース」は研究用の閲覧については、申請(ID とパスワード)が必要である。

なお、「新潟県立図書館 郷土新聞画像データベース」の高精細の完全版は、新潟県立図書館と新潟大学附属図書館で閲覧できる。

6 . 研究組織

(1)研究代表者

原田 健一 (Harada Kenichi)

新潟大学・人文社会・教育科学系人文学部・教授

研究者番号：70449255

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

()